

臓位轉錯症ノ追加

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38159

五)ハ平均重量三〇〇〇瓦。(二二〇〇一四五〇〇瓦)・ガルト(Orth)

氏(十八)ハ平均男三〇〇〇〇女二五〇〇〇瓦ナリト云ヘリ。

次ニ心室筋層ノ厚徑ニ關スル諸家ノ計數ヲ左ニ列記ス。即チ

左 室 右 室 人 名

男 一・七 〇・六 バール(Buhl)(十七)

女 一・六 〇・四 同

通約 一・六 〇・五

〇・七一〇 〇・二一〇三

一・一一一 四 〇・五一〇七

一・〇一一 五 〇・二一〇三

等トアリ。

上來記述セル所チ總括スルニ、本邦小兒ノ心臟重量ハ歐洲ノ小兒ノソノトノ比較ハ前述ノ如クニシテ稍小ナルモ、彼我共ニ十七年乃至二十年ニ至ツテ辛シテ成人ノソノニ匹敵スベキニ至ル。

心室壁ノ厚徑ハ、既ニ一歳ノ後半期ニ於テモ殆ソド成人ト同一關係(左右室厚徑ノ比)チ有シ、滿一年以上ニ於テハガルト氏ノ數(左〇七一〇・〇、右〇二一〇・三仙迷)ニ達スルアリ。滿九歳以上ハ全ク常ニ其他諸家ノ表

ハセル成人ノ數ト異ルナキニ至ル。即チ心臟ノ重量ハ年齡ニ應ジ、身體ノ成長發育ニ從ヒテ増加スルモ、左心室厚徑ハ生後六ヶ月迄ハ比較的増加著シク、其後著明ノ變化ナク二年以上〇・八一〇仙迷トナリ、滿九年ヨリ全ク成人ト同厚徑チ有シ、右心室厚徑ハ生後著明ノ増加ナシト雖、滿一年以上成人ト同一ノ厚徑チ有シ、小兒期中更ニ變化スル所ナシ。

引用書目

1) Thoma, Grösse und Gewicht der anatomischen Restandtheile des Menschlichen Körpers im gesunden und im kranken Zustande. 1882.
 2) Glanvinnig.
 3) J. Reid, 4) Peacock, 5) Banke, 6) R. Boyd. Citirt von ebenla. 7) Dr. Heinrich von Fabrice, Die Lehre von der Kind-abtreibung und von kindesmord (S. S. 119.) 8) Daffner, Das Wachstum des Menschen. (S. S. 105.) 9) Die neuen preussischen Vorschriften von 4. Januar 1905. für das Verfahren des gerichtlichen untersuchungen menschliche Leichen und Erläuterungen von der otto. Rapprund. 10) 緒方、飯塚、初生兒心臓探覽第三回日本醫學會誌(産科婦人科會ニ於テ)七二四頁. 11) Dr. L. unger, Lehrbuch der Kindes Krankheiten, (S. P. 45.) 12) Dr. Alois Monti, Kinderheilkunde in einzel Darstellungen 26 Heft, Das Wachstum des Kindes. 13) Vierordt, Daten und Tabellen 14) Pfander und Schlossmann, Handbuch der Kinderheilkunde. Bd. III. 1910. 15) Franke, Der Mensch (S. P. 205.) 16) Westenhoeffer, Atlas der Sectionstechnik 1908. 17) Buhl, citirt von Vierordt, Daten u Tabellen, P. 31. 18) Dr. J. Orth, pathol-anatom. Diagnostik P. 29.

●臟位轉錯症ノ追加

下總國飯岡町 七五三龜吉

余ハ偶然ニモ學兄石橋四郎氏ノ報告ヲ十全會雜誌第六十八號ニ於テ讀ミシト殆ソト同時ニ癡風ト脚氣ニ罹レル一患者ノ診察中、其ノ患者ノ心臟右在

症ナルヲ發見セリ依テ此處ニ追加ス

本症ノ名稱及ビ報告例ノ如キハ石橋氏ノ明示セラレシ處ナルヲ以テ重テ此處ニ擧グルノ要ナシ余ノ實驗セルモノモ亦タ男性ニ於ケル全臟位轉錯ノ一例ニシテ大方石橋氏ノ實驗例ト大差ナキモノナリ

實驗 例

住所 千葉縣香取郡萬歲村字萬歲

生所 千葉縣香取郡長文村字阿玉臺

農夫 ○ 澤 武 ○

明治二十四年九月九日生

初診 明治四十四年九月十二日

遺傳的關係 祖父七十二歲健全、祖母ハ十六年前五十七歲ニシテ特發性

壞疽症ニ罹リテ死亡セリ、父ハ五十三歲、母ハ五十二歲共ニ健全、同胞

姉二名三十六歲、三十三歲何レモ他家ニ嫁シ健全、兄二名、二十九歲ハ

生家戶主、二十二歲ハ他家ニ入り共ニ健全、血族中内臟位置異常等又ハ

畸形症ニ罹レルモノ無ク本患者ニ於テモ正規ノ分媿ニヨリテ産レ外見上

畸形ヲ認メズ余ノ診察ヲ請フニ至ル迄自他共ニ臟位轉錯アルヲ知ラズ健

全ニシテ高等小學校ヲ卒業シ爾來農業ニ就業シタリ

既往症 六歲ノ頃ヨリ右頸部ニ淡褐白色ノ斑紋ヲ生シ漸次周圍ニ蔓延シ

現今ニ至ルモ治セズ特ニ夏期發汗時ニ於テ著明ナリ癢痒、知覺異常等無

シ、本年六月以來勞働後心悸亢進ヲ感ズルニ至リ時々咳嗽アリ時ニ肺腸

筋ノ痙攣ヲ發ス又タ上腿ヨリ下腿ニ亘リテ麻痺感アリ便通毎日一行硬ク

シテ少量、尿數少ク黃赤色ナリ

本年五月頃ヨリ胃部痞滿ノ感アリ時ニ香酸、嗜睡アリ食思稍、不進ナリ嗜好、酒ヲ嗜マズ昨年春頃ヨリ喫烟ス然レハ時ニ咳嗽アルノ外何等障害無シ、種痘數回、麻疹幼少ノ頃經過セリ

本年四月徴兵検査ヲ終リ其ノ結果ハ歩兵甲種合格タリシモ抽籤ニヨリテ

第一補充トナレリ余ハ斯クノ如キ壯丁ニシテ甲種合格タルヲ得ルヤ否ヤ

頗ル疑問トスルモノナリ

現在症 体格中等營養可良、右頸、胸部ニ於テ癩風症ヲ有シ又、最モ輕

度ノ龜頭下裂尿道アルノ外疾病、畸形等ヲ認メ得ザルモ明ニ心尖搏動ノ

右乳線部ニ在ルヲ發見セリ而シテ常位ニ於テ之ヲ缺ク、脈搏八〇至整調

ナリ

身長五尺二寸五分、体重十四貫強、視力聽力等異常無ク花柳病等無シ、

膝蓋髓反射亢進、心悸亢進ス

四肢對等ニ發育ス然レハ此處ニ注意スベキハ左上肢ハ右ニ比シテ著シク

強力ニシテ自身モ亦タ左利ヲ訴フ永井潛博士ノ右利ト左利ヲ参照シテ大

ニ興味アルコトナリ

打診上心臟濁音界ハ胸骨右緣、右第三肋間、右乳線ノ外側一指橫徑ニ互

ル以内ハ輕濁音ヲ呈シ第四肋間、乳線ヨリ稍、外側、胸骨ヨリ稍、外側

ニ互ル以内ハ濁音ヲ呈ス、聽診上心音ハ稍、弱キモ比較的清楚ナリ心尖

部ハ右乳線ヨリ稍内方ニシテ各辨口ハ常位ト其位置ヲ相反セシメタルモ

ノト相當ス又、心尖部ニ輕キ收縮期的雜音ヲ聞ク等石橋氏ノ實驗例ト甚

ク酷似セルモノナリ

肺臟ニ於ケル打診及聽診モ亦タ石橋氏ノ其レト大差無シ又、肝臟ニ於テ

